

カイロや湯たんぽ、コタツ、電気毛布・カーペット などによる低温やけどに注意しましょう

＜相談事例1＞

湯たんぽをタオルでくるみ、足の下に置いて眠った。起きたら右足のくるぶしがヒリヒリして、やけどしていた。 (60代女性)

＜相談事例2＞

使い捨てカイロを10時間使って低温やけどを負い治療に1ヶ月かかった。やけどの痕が黒っぽい痣になって残っている。 (70代男性)

【アドバイス】

- 心地よく感じる温度でも、皮膚の同じ部分に長時間接触すると、低温やけどが起きます。肌に直接あてないように、また同じ箇所に長時間あてないようにしましょう。
- 湯たんぽや電気あんかは、就寝前に布団に入れ布団を温めるようにし、就寝時は布団から出しましょう。電気毛布も同様に、就寝時にはスイッチを切りましょう。
- 使い捨てカイロの使用部位や目的が特定されているものは、それを守りましょう。同じところに長時間あてたり、貼ったまま眠らないよう気を付けてください。
- 低温やけどは痛みも少なく、一見軽そうに見えますが、見た目よりも重症の場合があります。早めに医療機関を受診しましょう。

このような点に気をつけて低温やけどを防止しましょう。

北九州市立消費生活センター（ウェルとばた7F）	☎861-0999
小倉北相談窓口【小倉北区役所西棟1F】	☎582-4500
小倉南相談窓口【小倉南区役所3F】	☎951-3610
八幡西相談窓口【八幡西区役所コムシティ4F】	☎641-9782

※門司、若松、八幡東各窓口の面談による相談は事前予約が必要となります。
まずは消費生活センター☎861-0999へ電話でご相談ください。

消費者ホットライン☎188（北九あなたの地域の消費生活センターにつながります。）

- ★お買い物前に冷蔵庫の中身をチェックすると、過剰な買い過ぎを防ぎ、家計の節約になります。また冷蔵庫のチェックや清掃をすることで、期限切れ等による廃棄食品を減らせます。

